

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 1 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19H01192

研究課題名（和文）マイトラーヤニー・サンヒター研究の基礎資料（校訂本・翻訳）の完全整備

研究課題名（英文）Complete Basic Research Information (Critical Edition and Translation) of the Maitrayani Samhita

研究代表者

天野 恭子 (Amano, Kyoko)

京都大学・文学研究科・京都大学人文学連携研究者

研究者番号：80343250

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 8,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、古代インドの宗教文献群ヴェーダ文献のうち、儀礼解釈の最も古い記述を含むマイトラーヤニー・サンヒターの基礎研究（原典校訂、現代語訳）を目的として行った。

1) 原典校訂：新発見の写本合計38本を2021年度までに読み終え、原文解釈を行いながら批判校訂本を作成した。2) 現代語訳：マイトラーヤニー・サンヒターのうち未訳である第3-4巻の散文（儀礼解釈）部分のドイツ語訳を作成した。3) これらの基礎研究をもとに、マイトラーヤニー・サンヒターの成立過程とその背景となるヴェーダ期社会の変遷について考察を進め、第18回国際サンスクリット学会（2023年1月）において、本テーマで特別部会を開催した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の対象であるマイトラーヤニー・サンヒターは、その古さと重要性にも関わらず、言語と内容の難しさによって専門研究者によってすら、十分に、また正しく研究に利用されてこなかった。本研究によって作成された、これまでの研究の誤りを多く訂正する新校訂本およびドイツ語訳は、ヴェーダ文献とヴェーダ期社会を通史的に研究することを可能にするものである。

マイトラーヤニー・サンヒターの未解読の部分を読解することにより、同文献の成立過程についての理解が大きく進んだ。デジタルヒューマニティ手法による研究との協働も相まって、ヴェーダ文献史の新しい議論の枠組みを提供し、通説を覆す知見を提示することができた。

研究成果の概要（英文）：This study aims to conduct a foundational research (creating a critical edition and a translation) on the Maitrayani Samhita, a body of Vedic literature from ancient India that contains the earliest descriptions of ritual interpretations. The research focuses on the following:

1) Critical edition of the original text: By the end of the 2021 fiscal year, we completed the reading of a total of 38 newly discovered manuscripts. We created a critical edition of the text while interpreting the original text. 2) Modern translation: We produced a German translation of the prose sections (ritual interpretations) of Books 3 and 4 of the Maitrayani Samhita, which had not been previously translated. 3) Based on these foundational studies, we further investigated the formation process of the Maitrayani Samhita and the transformations of Vedic society that underlie its background. We organized a special session on this theme at the 18th World Sanskrit Conference in January 2023.

研究分野：インド哲学

キーワード：古代インド ヴェーダ サンスクリット語 マイトラーヤニー・サンヒター 原典校訂 ヴェーダ写本

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

BC1200年頃からおよそ1000年に亘って徐々に編纂されたヴェーダ文献は、古代インド文献の最古層をなし、神話や祭式を巡る哲学的議論を含んだ膨大な文献群である。本研究の対象であるマイトラーヤニー・サンヒターは、BC900年前後の成立とされ、ヴェーダ文献の中で最も古い「祭式解釈」を含む。この祭式解釈の中で自然哲学や論理的思考が発展し、ヒンドゥー思想や仏教等、後の様々な哲学・宗教の源泉となった。このような重要性にも関わらず、古さ故の言語の難解さと、古代の祭式専門書という内容の特殊さによる理解の困難さにより、同文献は、原典が1881-86年にL. von Schroederによって出版された後は研究されず、2009年出版の研究代表者のドイツ語訳 (*Maitrāyaṇī Saṁhitā I-II. Übersetzung der Prosapartien mit Kommentar zur Lexik und Syntax der älteren vedischen Prosa*) が世界初の現代語訳となった。

研究代表者のこの著書によって、マイトラーヤニー・サンヒターが、言語学、思想史等の分野で資料として多く利用されるようになった。しかし同書の扱う部分は全体の3分の1程度であるため、未訳部分の翻訳と、それに並び、原文の新しい版の出版が待ち望まれている。それは、現在研究者に用いられている von Schroeder 版の原典は出版から130年を経て、現代の研究水準に照らして多くの訂正が必要だからである。米国ハーヴァード大学、M. Witzel 教授は、1970年代に現地インドで写本収集を行い、マイトラーヤニー・サンヒターの新写本を多数発見したが、それをういて新校訂本を作成するには至らなかった。

研究課題の核心をなす学術的意義は次のことにある。すなわち、古代インド文献の中でマイトラーヤニー・サンヒターが、原典・翻訳という基礎資料が不十分なために、研究者にすら十分に利用されない、あるいは正しく理解されないで引用されるという状況があり、それが古代インドの文化、宗教、言語を通史的に見る研究を不完全にしているという、その欠陥を埋めることにある。マイトラーヤニー・サンヒターより古いリグヴェーダ、あるいは新しいタイッティリーヤ・サンヒターは、いずれも現代語訳があるが、通史的研究の中で、まずリグヴェーダに言及し、その次にタイッティリーヤ・サンヒターに言及する(時代的にその中間に位置するマイトラーヤニー・サンヒターには言及しない)という研究の例は、枚挙にいとまがない。古代インドの社会と宗教が、ヴェーダ祭式の発展と共に大きく変化していく、まさにその最初に時期に編纂されたマイトラーヤニー・サンヒターが研究に利用されることにより、より正しいインド文化・思想の全体像を得ることが可能になるのである。

### 2. 研究の目的

本研究は、このマイトラーヤニー・サンヒターの、原典校訂本および現代語訳(ドイツ語訳、英訳)を完成させることを目的としている。重要な資料でありながら、1881-86年に出版された von Schroeder による原典は130年を経て多くの訂正が必要であり、翻訳は2009年に研究代表者によって一部のドイツ語訳が出版されたのみという状況であり、原典・翻訳という基礎資料の完備は研究史上焦眉の課題として残されている。研究の目的は次の3つである：

- 1) 同文献の新写本資料を用い、新校訂本を作成する。
- 2) 同文献の言語研究に主眼を置いたドイツ語訳および、より一般的な読者を想定した英訳を作成する。
- 3) 上記の研究を踏まえ、マイトラーヤニー・サンヒターの成立過程、隣接学派との関係、歴史的背景について考察を深める。このテーマでの特別部会を、2021年に行われる国際サンスクリット学会において開催する。

### 3. 研究の方法

#### 1) 新写本資料を用いた新校訂本：

マイトラーヤニー・サンヒターには von Schroeder の校訂本出版以降に発見された新たな写本資料がある。その写真資料をハーヴァード大学 M. Witzel 教授によって提供され、この新資料を用いて校訂を行った。これらの写本を正しく理解するために、口頭で読み上げられる原文を文字にして書写する際の、音韻と記述の諸問題を整理せねばならない。

校訂本作成には正しい文法解釈と構文の理解が必要である。これまでなされた研究においてマイトラーヤニー・サンヒターの解釈に誤りが多かった一番の点は、文の切れ目の解釈である。von Schroeder が誤った文の切れ目によって原文を提示している場合があり、それをそのまま解釈しようとするために訳の誤りとなるのである。研究代表者は2009年の研究において特にマ

イトラーヤニー・サンヒターの言語の構文について精密に考察したため、von Schroeder の文の切れ目に関する解釈の誤りを多く訂正できる。新校訂本はこの正しい解釈によって作成される。

## 2) 現代語訳：

研究代表者は 2009 年の研究において、マイトラーヤニー・サンヒターの全体の 3 分の 1 を訳し、語彙や構文の分析方法と、それをドイツ語に表現する表現法を確立した。同じ方法論で残りの未訳部分のドイツ語訳を作成する。本研究で扱う部分は、すでに翻訳した部分と違う時代の言語層に属することが、近年の研究代表者の研究で明らかになりつつある。本研究での言語研究はマイトラーヤニー・サンヒターの何層かに分かれた成立年代を明らかにすることに寄与するものである。

研究の初期には、ドイツ語訳と並行して英訳を行う計画であったが、近年 AI による翻訳機能の発展が目覚ましいため、まずは研究においてはヴェーダ語原文からドイツ語への翻訳に集中し、その後 AI による翻訳機能を援用しつつドイツ語から英語への翻訳を行うのが妥当であると判断した。研究代表者、分担者ともに、英語による論文を数編発表し、その中では部分的であるがヴェーダ語原文と英訳を掲載している。

## 3) マイトラーヤニー・サンヒターの成立過程と歴史的背景、国際学会特別部会の開催：

ヴェーダ聖典のうち、最古層に属するリグヴェーダやアタルヴァヴェーダについては、数名の研究者の参画するプロジェクトや学会の特別部会が多く持たれてきた。しかし、両文献に続いて、古代インド祭式が大きな改革を迎えるその最初期に成立したマイトラーヤニー・サンヒターについては、そのような試みは現在までなされていない。しかし同文献の研究の状況はここ数年で大きく変化した。研究代表者の 2009 年のドイツ語訳の出版以来、同文献が研究に用いられることが増え、研究代表者のそれ以降の研究によってマイトラーヤニー・サンヒターの成立背景についての議論も大きく進展し、ここ数年でブネー大学の N. Kulkarni 教授など、マイトラーヤニー・サンヒターに関心を持つ研究者同士の交流も深まった。以上のような事情を鑑みて、インド学の分野における最大の国際学会である国際サンスクリット学会においてマイトラーヤニー・サンヒターについての特別部会を開催することを目指した。

## 4. 研究成果

1) 原典校訂は、写本資料の下読みを 2 名のポスドク研究者が行い、それをもとに研究代表者が原文を検討し、校訂本を作成した。読むべき写本は、断片的なものも含め 38 本であったが、2021 年度までに読み終えた。これらの写本を検討したことから、マイトラーヤニー・サンヒターの伝承の特徴を把握することができ、口頭伝承と書写伝承のそれぞれで起こる現象を、マイトラーヤニー・サンヒターの写本表記の中に見出し、音韻と記述を巡る諸問題について論じた。この考察はこれまで知られていなかった多くの新しい情報を含み、広くインドの言語の音韻研究に重要な資料を提供し、また、今後他の新たな写本を読解する際にも指針として役立つものである。

校訂本は原文解釈(ドイツ語訳)を行いながら作業を進めた。校訂・ドイツ語訳を進めることができ、大部分を占める儀礼解釈(散文)部分について完成した。しかし一部のマントラ(韻文を含む)部分の作業が残ることとなり、今後速やかに完成を目指す。

2) この校訂作業とともに研究代表者はドイツ語訳と、言語および思想・祭式に関する注釈を作成した。マイトラーヤニー・サンヒター全 4 巻のうち第 3 巻の前半部分は、火壇積みの儀礼という、大規模で複雑な儀礼の記述を含むため、研究分担者伊澤と共に講読会を開催し、議論を重ねながら読解を進めた。講読会は、年に 6 ~ 8 回、京都大学において(コロナの期間はオンライン)開催した。この研究の成果として、伊澤が 4 つの口頭発表を行い、2 編の論文を発表した。研究代表者は、マイトラーヤニー・サンヒター研究の成果として、下で述べるデジタルヒューマニティ手法の研究を除いて、文献学の分野での 13 の口頭発表を行い、10 編の論文を発表した。それらにおいて、マイトラーヤニー・サンヒターの一部の原文校訂と英訳を提示している。

3) これらの基礎研究をもとに、マイトラーヤニー・サンヒターの成立過程、同時代の他の文献との関係、それらの背景となるヴェーダ期社会の変遷について、考察を進めた。重要な成果は、2023 年 1 月に、第 18 回国際サンスクリット学会(The 18th World Sanskrit Conference; キャンベラ、オンライン開催)において、マイトラーヤニー・サンヒターについての特別部会 "Maitrayani Samhita. Its history, background and relation to the other Vedic texts" を主宰したことである。研究代表者、研究分担者伊澤を含む日本人研究者三名の他、インド、フランス、ベルギーの、計 6 名の研究者が発表およびディスカッションを行った。また、天野が文献学の分野で行った 13 の口頭発表と 10 編の論文はマイトラーヤニー・サンヒターの成立とその背景を論じるものである。これらの研究成果により、マイトラーヤニー・サンヒターの成立についてのこれまでの見方の問題について明らかにし、新たな知見と議論の枠組みを提示したと言える。また、マイトラーヤニー・サンヒターの成立過程については、下で述べるデジタルヒューマニティ手法による研究によって新たな局面を拓いている。

#### 4) その他

マイトラーヤニー・サンヒターの成立過程の解明のために、天野を研究代表者とする別の科研費研究(国際共同研究強化(B)「ヴェーダ文献における言語層の考察とそれを利用した文献年代推定プログラムの開発」21KK0004)はデジタルヒューマニティーによる文献の解析を発展させているが、本研究によるマイトラーヤニー・サンヒターの基礎資料整備および成立過程についての仮説の発展が、国際共同(B)の研究を大きく発展させる原動力となっている。本研究による原文の校訂と精密な解釈によって、デジタルヒューマニティー手法によるヴェーダ文献の解析について、正しい分析ができているかを評価し、分析データを文献史に位置付けて議論することが可能になるのである。2021年以降マイトラーヤニー・サンヒターと同時代の文献の類似度分析などについて、デジタルヒューマニティー分野において著しい成果発表(口頭発表16、論文2)を示すことができたが、それは本研究の成果を基盤にしてのことである。本研究と、デジタルヒューマニティー手法による国際共同(B)の研究が両輪となり、マイトラーヤニー・サンヒターを含む同時代の文献と、その成立背景となる社会について理解を大きく進めたと言える。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 19件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 伊澤敦子	4. 巻 24
2. 論文標題 頭部における 7つのprana たちについて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際仏教学大学院大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 34-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊澤敦子	4. 巻 2
2. 論文標題 神話における頭部の切断と回復	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ブラフマニズムとヒンドゥイズム	6. 最初と最後の頁 47-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kyoko Amano	4. 巻 34-35
2. 論文標題 etad va esabhyanukta in the Maitrayani Samhita. The Beginning of Didactical Verse Embedded in Narrative Prose	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Indological Studies	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroaki Natsukawa, Kyoko Amano	4. 巻 -
2. 論文標題 古代インド文献の祝詞共起関係性の視覚的分析	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 可視化情報シンポジウム2023. 講演論文集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野恭子	4. 巻 96
2. 論文標題 古代インドにおける婚姻についての一考察 ヴェーダ文献に見られる妊娠・出産の葛藤を巡る神話から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 西南アジア研究	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Amano Kyoko	4. 巻 117
2. 論文標題 Interconnecting Glimpses of Vratya Culture in Ancient India	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Orientalistische Literaturzeitung	6. 最初と最後の頁 91-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/olzg-2022-0034	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kyoko Amano	4. 巻 70
2. 論文標題 Is Indra a Sun God?	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Indian and Buddhist Studies	6. 最初と最後の頁 1039-1044
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 天野恭子、夏川浩明	4. 巻 -
2. 論文標題 古代インド文献の文献間影響関係の可視化	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 可視化情報シンポジウム2021講演論文集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kyoko Amano	4. 巻 34-35
2. 論文標題 etad va esabhyanukta in the Maitrayani Samhita. The Beginning of Didactical Verse Embedded in Narrative Prose	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Indological Studies	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kyoko Amano	4. 巻 10
2. 論文標題 What is 'knowledge' justifying a ritual action? Uses of ya evam veda / ya evam vidvan in the Maitrayani Samhita	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Collection Religions, Comparatisme - Histoire = Anthropologie	6. 最初と最後の頁 39-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kyoko Amano	4. 巻 -
2. 論文標題 nirvapet and yajayet in the Kamyā-Isti Chapter of the Maitrayani Samhita: Tradition and Practice in the Old Vedic Ritual Literature	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Living Traditions of Vedas. Proceeding of the International Vedic Workshop (IVW) 2014	6. 最初と最後の頁 608-650
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kyoko Amano	4. 巻 -
2. 論文標題 A Non-Srauta Ritual in the Oldest Yajurveda Text. Maitrayani Samhita IV 2 (Gonamika Chapter)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of the 17th World Sanskrit Conference, Vancouver, Canada, July 9-13, 2018, Section 1: Veda	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14288/1.0379840	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 天野恭子	4. 巻 1
2. 論文標題 願望祭とヴェーダ期における社会秩序の維持	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ブラフマニズムとヒンドゥイズム	6. 最初と最後の頁 55-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野恭子	4. 巻 1
2. 論文標題 ヴェーダ祭式を裏付ける「知識」 ブラフマニズムにおける哲学的傾向の源流	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ブラフマニズムとヒンドゥイズム	6. 最初と最後の頁 241-262
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野恭子	4. 巻 2
2. 論文標題 古代インドの牝牛崇拜儀礼 ヴェーダ文献における非正統派儀礼	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ブラフマニズムとヒンドゥイズム	6. 最初と最後の頁 177-201
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kyoko Amano	4. 巻 -
2. 論文標題 The Concept of rupa-samrdhi- and the Linguistic Layers of the Maitrayani Samhita	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 The Vedas: texts and language, myths and ritual	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 天野恭子	4. 巻 96
2. 論文標題 古代インドにおける婚姻についての一考察 ヴェーダ文献に見られる妊娠・出産の葛藤を巡る神話から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 西南アジア研究	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kyoko Amano	4. 巻 -
2. 論文標題 Influence of the Atharvaveda on Rituals in the Maitrayani Samhita	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 The Atharvaveda and its South Asian Contexts: 3rd Zurich International Conference on Indian Literature and Philosophy (ZICILP)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Amano Kyoko	4. 巻 61
2. 論文標題 The development of the uses of ha / ha vai / ha sma vai with or without the narrative perfect and language layers in the old Yajurveda-Samhita texts	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Lingua Posnaniensis	6. 最初と最後の頁 11 ~ 24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2478/linpo-2019-0011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計34件 (うち招待講演 9件 / うち国際学会 14件)

1. 発表者名 Kyoko Amano, Hiroaki Natsukawa
2. 発表標題 Visualization of the relationship among Vedic texts and observation of the development of Yajurveda texts
3. 学会等名 A Three Day International Seminar on Paninian Grammar & its Applications 13-15 February 2023 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1 . 発表者名 Oliver Hellwig, Sven Sellmer, Kyoko Amano
2 . 発表標題 The Vedic corpus as a graph. An updated version of Bloomfield's Vedic Concordance
3 . 学会等名 The 18th World Sanskrit Conference 2023. 9-13 January 2023 ( 国際学会 )
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Kyoko Amano
2 . 発表標題 Apri verses and prayajas in the Maitrayani Samhita, and their relationship to the Rgveda khila
3 . 学会等名 The 18th World Sanskrit Conference 2023. 9-13 January 2023 ( 国際学会 )
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Kyoko Amano
2 . 発表標題 History of Prayaja / Anuyaja `Preliminary / Concluding Worship' and Apri Hymn in Vedic Ritual
3 . 学会等名 Der 34. Deutsche Orientalistentag ( 国際学会 )
4 . 発表年 2022年

1 . 発表者名 Kyoko Amano
2 . 発表標題 Apri verses and prayajas in the Maitrayani Samhita and their relationship to the Rgveda khila
3 . 学会等名 18th World Sanskrit Conference ( 国際学会 )
4 . 発表年 2023年

1. 発表者名 Kyoko Amano
2. 発表標題 History of prayaja `opening worship' and apri hymn in Vedic ritual
3. 学会等名 Der 34. Deutsche Orientalistentag (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kyoko Amano
2. 発表標題 The Result of the Two-Year SPIRITS Project and Our Vision for the Next Research
3. 学会等名 Ancient India meets Data-Science. The 2nd and concluding Workshop for the SPIRITS project "Chronological and Geographical Features of Ancient Indian Literature Explored by Data-Driven Science" (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 天野恭子
2. 発表標題 Maitrayani Samhita IV 14 (kanya-pasuのためのrc) とRgveda I巻
3. 学会等名 2021年度インド思想史学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 天野恭子
2. 発表標題 インドラは太陽神か？ 黒ヤジュルヴェーダ・サンヒターにおける思想潮流の多重性
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第72回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kyoko Amano
2. 発表標題 Historical Background of the Formation of the Vedas in Ancient India as Deciphered from the Visualization of the Influential Relations among the Vedic Texts
3. 学会等名 KUDH International Conference. Digital Transformation in the Humanities (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 天野恭子、夏川浩明
2. 発表標題 古代インド文献の文献間影響関係の可視化
3. 学会等名 可視化情報シンポジウム 2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kyoko Amano
2. 発表標題 Problems in the Formation of the Vedas, Ancient Indian Religious Texts
3. 学会等名 Dynamism of Social Context Deciphered by a Linguistic Analysis of Ancient Literature
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kyoko Amano
2. 発表標題 Relationship Among Vedic Schools Deciphered by the Visualization of Mantra Collocation
3. 学会等名 Dynamism of Social Context Deciphered by a Linguistic Analysis of Ancient Literature
4. 発表年 2021年

1 . 発表者名 Kyoko Amano
2 . 発表標題 Diversity of Vedic ritual. Its different origins, innovations and the composition of the canons
3 . 学会等名 Lecture Vediche: Il dono: croce e delizia dei brahmani (招待講演)
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 Kyoko Amano
2 . 発表標題 Influence from the Atharvaveda on Rituals in the Maitrayani Samhita.
3 . 学会等名 The Atharvaveda and its South Asian Contexts: 3rd Zurich International Conference on Indian Literature and Philosophy (ZICILP) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Kyoko Amano
2 . 発表標題 etad va esabhyanukta in the Maitrayani Samhita. The Beginning of Didactical Verse Embedded in Narrative Prose
3 . 学会等名 Myth, Language, and Prehistory: A Celebratory Conference in Honor of Prof. Michael Witzel (招待講演)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Kyoko Amano
2 . 発表標題 Composition of the Mantra Parts in the Maitayani Samhita
3 . 学会等名 7th International Vedic Workshop Dubrovnik (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名 天野恭子
2. 発表標題 ヴェーダ祭式文献の記述から古ヴェーダ期の社会を考える
3. 学会等名 2019年度 KINDAS研究グループ1-A「南アジアの長期発展経路」第1回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Atsuko Izawa
2. 発表標題 Seven Pranas /Chidras as the Exits for Prana from the head
3. 学会等名 7th International Vedic Workshop Dubrovnik (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊澤敦子
2. 発表標題 煉瓦積みにおけるKathaka-Samhitaの定型句の多用について
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第70回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Atsuko Izawa
2. 発表標題 A Unique Position of the Maitrayani Samhita: (Sowing the Seeds of Abstract Speculation in the Maitrayaniya Upanisad?)
3. 学会等名 18th World Sanskrit Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 伊澤敦子
2. 発表標題 Agnicayana 最上層（第5層）の先に見える景色 煉瓦積み of 総仕上げに関する各派の記述
3. 学会等名 インド思想史学会第30回学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kyoko Amano
2. 発表標題 Across the Disciplines of Linguistics, Philology and Cultural Studies: An Analysis of a Passage Indicating Cannibalism from Vedic Literature
3. 学会等名 Dall' Anomina alla Norma. Strategie di Codifica. Dall' Antichite ai Giorni Odierni (招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Kyoko Amano
2. 発表標題 The Concept of rupa-samrdhi- and the Linguistic Layers in the Maitrayani Samhita
3. 学会等名 8th International Vedic Workshop (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kyoko Amano
2. 発表標題 Conversion of the Mantras from the Soma Ritual into the New and Full Moon Sacrifice
3. 学会等名 10th European Conference of Iranian Studies ECIS 10 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 天野恭子
2. 発表標題 動物犠牲祭の前献供を彩るアーブリー讃歌「喜びの歌」;信仰、歴史、言語の観点から
3. 学会等名 プラフマニズムとヒンドゥイズム第8回シンポジウム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kyoko Amano
2. 発表標題 Diversity of Vedic ritual. Its different origins, innovations and the composition of the canons
3. 学会等名 ピサ大学特別講義 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroaki Natsukawa, Kyoko Amano
2. 発表標題 VL2: Visualization of Linguistic Layers in Vedic Literature
3. 学会等名 International Workshop: Exploring the Potential of Utilizing Data from Sanskrit Literature
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Hiroaki Natsukawa, Kyoko Amano
2. 発表標題 Visual Analytics of Intertextual Relationship Using a Mantra Index
3. 学会等名 International Workshop: Exploring the Potential of Utilizing Data from Sanskrit Literature
4. 発表年 2024年



1. 発表者名 Kyoko Amano
2. 発表標題 Analysis of Similarity in Yajurvedic Texts
3. 学会等名 International Workshop: Exploring the Potential of Utilizing Data from Sanskrit Literature
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 天野恭子、夏川浩明
2. 発表標題 データ駆動型科学が解き明かす古代インド文献の時空間的特徴
3. 学会等名 京都大学学術情報メディアセンター「古文書とスーパーコンピューターに関するシンポジウム」(招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 夏川浩明、天野恭子
2. 発表標題 古代インド文献の祝詞共起関係性の視覚的分析
3. 学会等名 第51回可視化情報シンポジウム2023
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yuki Kyogoku, Yuzuki Tsukagshi, So Miyagawa, Kyoko Amano
2. 発表標題 Comparative Analysis of Vedic Sanskrit Documents Using Doc2Vec and Transformer Models
3. 学会等名 DH2023 Workshop; SIG-DLS Seven Years on (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 So Miyagawa, Yuzuki Tsukagoshi, Yuki Kyogoku, Kyoko Amano
2. 発表標題 Analyzing Text Similarity in Vedic Sanskrit Texts: A Bipartite Approach Using Stylometry and Text Reuse Detection
3. 学会等名 DH2023 Workshop; SIG-DLS Seven Years on
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>ヴェーダ文献における言語層の考察とそれを利用した文献年代推定プログラムの開発  <a href="https://ancientindia-datascience.jp/">https://ancientindia-datascience.jp/</a></p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	伊澤 敦子 (Atsuko Izawa) (80724872)	国際仏教学大学院大学・公私立大学の部局等・研究員  (32697)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 Dynamism of Social Context Deciphered by a Linguistic Analysis of Ancient Literature.	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 Ancient India meets Data-Science. The 2nd and concluding Workshop for the SPIRITS project "Chronological and Geographical Features of Ancient Indian Literature Explored by Data-Driven Science"	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 International Workshop: Exploring the Potential of Utilizing Data from Sanskrit Literature	開催年 2024年～2024年

## 8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ドイツ	University Dusseldorf			
イタリア	University of Pisa	University of Cagliari		